

製品名: STK36 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab18397

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	170kDa

抗原情報

遺伝子名	STK36
別名	STK36; KIAA1278; Serine/threonine-protein kinase 36; Fused homolog
遺伝子 ID	27148.0
SwissProt ID	Q9NRP7
免疫原	抗血清はヒト STK36 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 387-436

背景

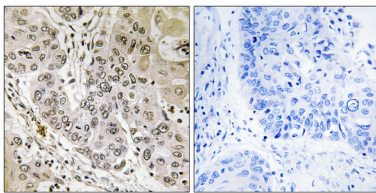
この遺伝子は、セリン/スレオニンキナーゼファミリーに属する酵素をコードする。このファミリーメンバーは、ヘッジホッグシグナル伝達経路において重要な役割を果たすショウジョウバエのタンパク質に類似している。このヒトタンパク質は、GLI ジンクフィン

ゲル転写因子の正の調節因子である。相同マウス遺伝子のノックアウト研究では、このヒト遺伝子の欠陥が、おそらく運動性繊毛の機能的欠陥に起因する先天性水頭症を引き起こす可能性があることが示唆されている。ヘッジホッグシグナル伝達は特定の種類の消化器癌で頻繁に活性化されるため、この遺伝子はこれらの癌の治療標的となることが示唆されている。この遺伝子の選択的スプライシングは、複数の転写バリエーションをもたらす。[RefSeq 提供、2011年8月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。機能: 出生後の発育に必要なセリン/スレオニンタンパク質キナーゼ。脳脊髄液の恒常性または繊毛機能の調節を介している可能性がある。SUFU の効果に拮抗し、それらの核局在を促進することで、転写調節因子 GLI1、GLI2、および GLI3 の活性を制御する。GLI2 は転写活性を得るために STK36 の追加機能を必要とするが、この酵素はこれが起こるために活性キナーゼ触媒部位を有する必要はない。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。細胞内局在: 核にも低レベルで存在します。組織特異性: ほとんどの胎児組織、成人の卵巣では低レベルで発現し、成人の精巣では高レベルで発現し、生殖細胞に局在します。、

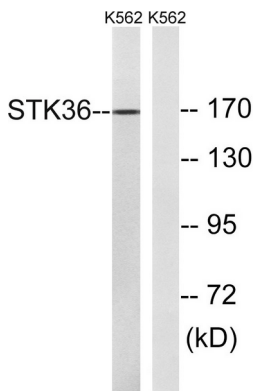
研究分野

ヘッジホッグ;がんの経路;基底細胞癌;

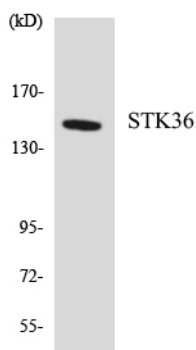
画像データ



STK36 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



STK36 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



STK36 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。

